

## 黒部市総合振興計画審議会 第1回 第6部会（行財政）会議録

日時：平成18年11月30日（木）13：30～16：00

場所：黒部市民会館101会議室

出席者：第6部会委員8人、専門委員1人

### 事務局

定刻にはちょっと早いですけれども皆さん全員揃われましたので、ただいまから黒部市総合振興計画審議会第1回第6部会を開催させていただきたいと思います。それでは初めに三井部会長さんの方からご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

### 部会長

皆さんこんにちは。ご指名でございますので僭越ながら黒部市総合振興計画の審議会の第1回目、第6部会の部会長としての挨拶をさせていただきます。なにしろ重責でございます。私が部会長として相応しいかっていうのは甚だ自分自身でも疑問なんです。ご指名を受けたからには副部会長の さんと一緒にですね、一生懸命務めていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

委員の皆様には何かとお忙しい中、お集まりいただき本当に感謝申し上げます。去る9月25日に開催されました第1回審議会では、市長から計画策定に係る諮問を受け、基本方針やスケジュールについての説明を受けました。以来本日まで2カ月ほどの間、市の方ではそれらの方針に基づき市全体の事業についての洗い出しと今後10年間を見据えた上で何を重点事業として位置付けるのかという点において検討してこられました。また11月21日から27日にかけて新生黒部市のまちづくりをテーマに市内4カ所でタウンミーティングを開催されております。市長と語るという意味で各校下4カ所でですね行われたところであります。この中で、参加された方もおられるかもしれません。これも市民の声を計画に反映させてくということでございます。我々審議会委員としましても、市の皆さんと一緒にですね、知恵を出して汗を出しているんな意味で夢のある計画策定に向けて積極的に議論していきたいなあとというふうに思っております。本日は事務局の方から事前に資料をお送りいただいております。これを基に第6部会の該当する事業メニューや重点事業の精査を中心に協議していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

委員会の時はですね、余り固くならずですね、そういう私もだいが固くなったりしますが、ここにご列席の方がたくさんおられますし、こちらの人数よりそちらの人数が多いということも大変なプレッシャーなわけなんですけども、自由なアイデア、活発な意見ということでリラックスして進めてまいりたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

### 事務局

ありがとうございました。それでは早速議事に入りたいというふうに思いますが、審議

会条例の定めによりまして、部会長が会議の運営にあたるということになっております。これからの進行につきましては三井部会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

部会長

はい。それでは条例の定めに従いまして座長役を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。次第の順序に従いまして議事を進めてまいります。事前にございました資料の中に本日の次第が入っているかと思っておりますので、その次第に基づいて順序よく行ってまいりたいと思っております。

まず報告事項といたしまして、計画策定に係るこれまでの経過についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

-----資料に基づき事務局から説明-----

部会長

はい、ありがとうございました。ただいまの報告事項につきまして何か質問等ございませんか。よろしいですか。今までの経過ということですので、これでご理解いただければと思います。

それでは特にないようですので、報告事項につきましては以上とさせていただきます。続きまして協議事項に移りたいと思っております。先程の経過報告にあたりましたとおり、これまで市の方で市全体の事業メニューを洗いなおしておられまして重点事業の絞り込みについて作業が進められてこられました。当第6部会該当する事業等についてこれから協議いたしますが、本日は1回目の部会でありまして、いろいろと市の考え方等をお聞きしながら、それに検討を加えて部会として取りまとめ、次回の第2回で結論を出したいと思いますので、その点をよろしくお願いいたします。つまり今日はですね、どんどん忌憚のない意見を自由に発言していただいてということかと思っております。それでは協議事項の(1)施策の体系についてということ、(2)中分類、事業メニューの整理及び重点事業の絞り込み全て関連がございますので一括して事務局から説明をお願いいたします。

事務局

それでは私の方から協議事項につきまして、恐縮ですが座って説明をさせていただきます。

-----資料；2、資料：3に基づき事務局から説明-----

部会長

ありがとうございました。かなり一気に全ての資料ということでご説明をいただきました。これから委員の皆さんのご意見等をお聞きするわけですが、全部いっぺんについてわけにいきませんので、順番に区切りをつけながら進めて参りたいと思っております。まず最初に資料2、施策の体系ということ、これを議題としてこれだけまず大事な全体像でござい

ますので、これについて。まあ骨組みですから、全ての部会に共通ということになります  
が、何かこれ全体についてご意見・ご質問等ございましたらよろしくお願ひいたします。

委員

はい。

部会長

はい、どうぞ。

委員

の中に庁舎の建設ということも入っているんですが、これは各部会からみると、第3  
部会に入れるべきものではないかなとも思いますが、まあ財政の関係で多分そういう方  
向になったのだらうかと思いますが、その先に説明がありました10年間見据えたうんぬ  
んて言われましたその10年間というのは、おそらく合併の際の合併債を利用するとい  
う意味の10年かどうということか、そういうのちょっと聞きたいんですが。

部会長

事務局、今のお話で2点あったように思いますが、まず当部会の第6部会に入っている  
この新庁舎の建設というのが、本来第6部会じゃなくて第3部会にあるべきものではない  
かということですね。あとは10年というのは今ご質問あった点での10年かというこの2  
点に答えてあげて下さい。

事務局

1つ目の庁舎の建設についてのどこの部会に位置付けかというお話でございますが、後  
ほども庁舎に関してはいろんなご意見も出ようというふうに思っております。市として庁  
舎を建設しなければならないという理由としていくつか当然整理をしております。先般タ  
ウンミーティングを行った際にも市長自らの口で何故庁舎を建設しなければならないか  
という、その理由について、整理をしながらお話をされておるところであります。その中  
の大きな一つでございますけども、行政運営の効率化ということについて、庁舎建設の大  
きな理由の一つでございます。そういうことで第6部会に位置付けをさせていただいてお  
るということでございます。それから今後10年というお話でございますけども、先般1  
回目の審議会で基本方針あるいはスケジュール等、ご説明申し上げた時に、この第1次黒  
部市総合振興計画の計画のスタートとしては、平成20年度というふうに申し上げました。  
基本構想の計画期間も10年間というふうに申し上げたわけですけども、今先程説明した  
いろんなこれまでの作業とかそれから本日のこの部会での議論をお願いしとるとい  
うのは、来年3月の基本構想の中間報告に向けての今土台の部分のご議論をお願いしとるとい  
うふうに理解をしていただきたいわけでありまして、従いまして基本構想の期間でありま  
す10年間を見据えていただきたいという意味でございます。当然合併特例債という話も  
出ましたけども、その10年間でどういう事業、これからやってくという中には、合併特  
例債というものを盛り込みながらの計画作りということになるかというふうに思いま

す。以上です。

部会長

委員さんよろしいですか。

委員

はい。ついでにだけど、この の中に、行政サービスの向上と庁舎環境の改善とありますが、こういうものはいずれこれはさしあたって分庁舎の時はなんじゃれど、新庁舎ができることによって、これはクリアできるのでないかなあと思って。

部会長

委員さんすいません、この部分に事業メニューについては、この次のところでこれだけ重点的に今日が一番大事な議題ですんで、全体の将来像というこの施策の体系について今ここではやらせていただきたいと思っております。ちょっとしばらくお待ち下さい。はい。他に何かございませんでしょうか。はい、 さん。

委員

いいですか。

部会長

はい。

委員

ちょっと僕専門委員の立場なんで、どこまで言えばいいか分からないんですけども、とりあえずこの組み立ての中の の連携・交流の促進という柱立てになっております。後ほど中見れば多少イメージ分かると思うんですけど、これだけをとった時に、どことの連携とかどういうところとの交流とかってというのが、ちょっとぼやとしてるのかなあというようなイメージがあります。例えば市の中のいろんな地域が連携するとか、あるいは世代間の交流を図るとかというような話もありますし、あるいは黒部とあと他の都市、県外であっても結構ですし、国際であってもいいと思うんだけど。中を見ると本当はそれらのことが全部書いてあるんですけど、何でこんな話をするかといいますと、私県庁の知事政策室というところ、地域振興班というところでまさにこういったような分野の今の取り組みを進めています。黒部市、新幹線の駅ができます。たいへんにメリットがある武器ですよ。平成 26 年度には開通しちゃう。そうなりますと、黒部が関東方面からこっち来た時に、一番最初の駅ですよ。いろんな人、ビジネスもあるだろうし観光もいろんなそういうものが増えてきます。後でまたゆっくり話をしたいと思いますけれど、要はそういう人の流れとかを、いかに今後の市の発展とか活性化に結び付けていくかっていう視点は、ものすごく大きいんじゃないかなというふうに思っています。従ってこの連携・交流っていうのが、気持ち的には地域に入っている企業ももちろん大事なんですけど、そういう外とのですね、都市部とかそういったところとのこれを活発するみたいなイメージ

がもう少し出せればなっというふうには個人的には思います。詳しくはまた後で。

#### 部会長

そうですね、それも後ほどこの事業メニューの方と一緒にこれだけやる時にもう一度詳しくお話をさせていただければと思います。今　さんおっしゃったように、メニューの表現の仕方、そういうものも全てそれぞれの皆さんでお考え、お気付きの点を多少なりとも、まだ修正もできますので、後ほどまたじゃ出させていたいただきたいと思います。

今資料2の全体の体系という中での位置付け、テーマ、基本理念、基本方針、ここにあるわけですけども、この全体についてはよろしいですか。

#### 委員

すいません。今　さんから貴重な意見をいただいたわけですけど、この一つのまちづくり方針の中に、市民と行政というものによるまちづくりですから、そこに今度外部とのそれは2番目の観光の振興とか、そういうようなところでの取り入れじゃないかなあとこういうように私は思うんですが、どんなもんでしょうか。ただこの連携・交流というのが、多少前回合併した時に、入善・朝日がですね、向こう向いたけども、将来的にはやはりここまでも含めたものでやってかなきゃなものかなと、そういうような連携というようなことを含んどらかなあと、ちょっと多少あいまいなところも私はないではないかと思ってるんですけど。

#### 部会長

そうですね。まあおっしゃるように、第2部会の産業経済の中にあります4番の観光の振興ですか、こういうところにも必ずそうやって新幹線とか来た時に、さっき　さんがおっしゃったような話っていうのは、まあ県外の団体との交流とかですね、連携こういうものについては、必ず観光も絡んでくると。まあそれだけに限ったことでもないかなという点もありますので、この辺も合わせて後ほど話をさせていただければと思います。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

#### 委員

私もその関連したことなんですけど、やっぱり連携・交流っていうのは、このまちづくりのメインテーマの「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部」ということで、ここにも交流って掲げているので、もうちょっと大きいところでこの6-1とかこういうちっちゃいところじゃなくて、もっと大きいところを出した方が交流っていうものはこれからいろんなことで交流があると思うんで、そういうのもうちょっと出した方がいいんじゃないかなあと私は思うんですけども、どんなもんでしょうか。

#### 部会長

第6部会の6つある内の一つの項目の事業メニューとして施策区分として出すのではなくて、もっとこの連携・交流というようなことでいえば、もっと大きく取り上げるべきではないかということですか。事務局いかがですか。

事務局

今のお話の方ですけども、今6つのまちづくり方針を基に、それぞれ施策を整理させていただきとるわけですけども、この6つのまちづくり方針というものは、その上にきます3つの基本目標を達成するために6つのまちづくり方針の柱立てで進めてきましょうということになっとりまして、この3つの基本目標の中の共生・活力・安心というふうにあるわけですけども、活力の方で交流という文字は打ち出しておりますので、そういったところではきちっと交流というところはしっかりと基本目標の中では押さえてあるのかなあというふうに思っております。

部会長

分かりました。よろしいですか。

委員

はい。

部会長

その辺も含めて、もう一度事業メニューの方を皆さんで精査して検討して意見を交わしながら、また上がってきた中で、中項目、大項目という話も無きにしも非ずだと思しますので、ちょっと先にじゃ体系の方についてだけ終わらせたいと思いますが、あと施策の体系についてございませんか。はい、 さんどうぞ。

委員

すいません。4番の男女共同参画社会の推進の中なんですけども、子育て支援のところ、相談窓口の充実っていうところがあるんですけど、やはり第4部会の5番、6番あたりでしょうか。子育て支援の充実とやっぱり重なって、なかなかこの相談窓口の充実と簡単に書いてありますけど、その第4部会の方が何か重そうな感じはするんですけど、その連携もしなきゃと思うんですけど。

部会長

当然各部会に共通するテーマみたいなもんもあるんでしょうけども、事務局、この辺は、どちらが重いか軽いかじゃないとは思いますが、側面が違うという意味で。

事務局

その辺も資料3の方へ入っていったからと思っておりますけども。

部会長

分かりました。

事務局

あの一申し上げておかなくていいですか。

#### 部会長

ええ、あとでじゃまとめて。どうしてもこの事業メニューの方へ皆さんお話がいつてしまうようなので、先にじゃ体系の方で何かあとはございませんか。はい。

#### 委員

体系の一番最初にあるまちづくりのテーマっていうところなんですけども、これはもうこれで確定っていうか、もちろんそれがあるから今全てがあるんだと思うんですけど、先程もおっしゃられた通り、合併後いろいろと状況も変わってきたとかそういったこともあろうかと思いますが、その中でももちろんこれは根幹となるテーマだと思うんですけども、本当に「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部」っていうものでいうことでよろしいですかね。今だから確認しときたいんですけども、本当にこのテーマで我々進んでいいのかが正直言いまして私このテーマちょっとあまり好きじゃなかったんですよ。何でかっていうと、やっぱり何か黒部らしさがないですよ。「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 入善」でも別にいいんじゃないかと。朝日でもいいんじゃないかなというような気がするんですよ。これから 10 年後、この黒部っていうものを独自性をもって我々戦略的にまた計画的なことを考えていく中で、もうちょっともちろんテーマはテーマでいいんですけど、この下に何か本当に我々が一つ何か基本となるような何かそういったものが、何か黒部的な本当に黒部らしさっていうかそういったものが何か見えない中で、このままずっと進んでいくと、なにかこれ 1 枚がこれ入善町の将来像でしよって見せられても何かその辺変わらないような気がするんですよ、正直なところ。何かこれを見て皆さん思われないかと思うんですけど、ここに例えば魚津市って書いてあったら、あー魚津市はこういうかんじなんだなあって思いません。何かこの資料の中に、黒部らしさっていうものが見えないんですよ。そこら辺をちょっと体系として最初に論じとく必要がないのかなと私は思ったんですよ。いかがですかね、そこら辺、皆さん。

#### 部会長

まずちょっと事務局の方にご質問ですが、このテーマ自体はもう固まってしまって触ってはいけないものなのかということがありましたが、はい。

#### 事務局

先程から説明の中でもあるかと思うんですけども、いわゆる施策の体系の中に載っておりますこれらまちづくりのテーマ、それからまちづくりの基本理念、それから基本方針というような骨格的な部分については、実はこういう形にさせて欲しいということをいうわけですが、それは何故かといいますと、実は新市建設計画というのが合併の時に作られた計画でございます。基本的には今回の市の総合振興計画というのは、これに基づいて作ると。もちろんそれを全く訂正しないと、そういうわけじゃないんですけども、ただこのまちづくりのテーマとかこういったものっていうのは、非常に根幹に係る話にもなってきますので、この辺についてのこれはその新市建設計画から引き継いだものというふう

に我々は認識しておるところです。

部会長

はい。多少議論はあってもいいけど、基本的にはこれでいくというような太いものがあるということですね。

事務局

そういうことになります、はい。

部会長

委員の中でこれについて他にご意見ございますか。      さん。

委員

私は大自然のシンフォニーっていう言葉大好きで、これは魚津とか朝日にはあげたくない。委員さんみたいに何かそういうふうにはならないですけど、わたしは文化・交流のってここら辺はいくらか違ってでもいいかなって思うんですけど。大自然のシンフォニー、この黒部っていうのはとてもまさにぴったりだなあと。この黒部じゃなくて、大自然のシンフォニー 富山県、でもいいくらいに思うんですけど。私は大好きです。この大自然のシンフォニー。

委員

いいですか。

部会長

はい、どうぞ。

委員

この「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部」っていうのは、先程事務局からも言われたように、これ合併の時の盛んに議論されて決まったことであるし、このテーマのこれについては6つの部会ありますが、これを基にして各部会も成り立つと思うんですが、今これをここでこのテーマについて議論する問題ではないんじゃないかなあと。ここで言うてもこれを変えられる当ては私はないんじゃないかなあと思います。

委員

はい。お二方本当にありがとうございます。まず私が説明したいのは、本当にまあこれでいくぞと。この中に先程言いましたように、体系の中にまだ黒部らしさっていうものがまだ埋め込まれてないんですよ。今後黒部が入善とか魚津、また地域間競争って言葉使っていていかちょっと分からないんですけども、ただまずは我々がこの地域をやっぱり盛り上げていかなければいけない。その中に黒部市民として参画してるわけだと思うんですけど、そしたらこのテーマっていうものをしっかりと感じて、この中に肉付けしていきたい



わけですよ。それとその点でまずは皆さんに希望を入れて我々の部会の中においてはこの黒部的な、黒部らしさ、この地域の特性を活かしたのもできると、盛り込んでいきましょうということぜひ皆さんで今後進めていきましょうということをお願いいたします。

#### 委員

今、さんおっしゃられる黒部らしさっていうものを出すっていうのは、非常に難しいんですよ。実際は、それはね、時代がこのように国際的にもずうっと進化してきてる時代だから、らしさっていうものは殆ど消えてしまってる。例えば昔でしたらこの地域らしさっていったらいったい何だっていうと、まず屋敷林が点在してる。その屋敷林を使って煮炊きをするし、農耕も例えば竹細工とか全部屋敷林の竹を使ってやったわけね。それが今アルミサッシとかあるいはプラスチック製品とかそういうものになってしまっていて、極めて共通化してしまっている。例えば学校における環境教育とってでも、極めて一般的な環境の中での教育、その地域の個性と教育ができるかっていうのは、皆が悩んでるわけね。だからそういう意味で、共通性っていうこととそれと特殊性ってものの2点でやっぱり見つめていかないとねえ。ただ、黒部らしさっていうのは、これは非常に出してくってっていうのはね、今はどっちかっていうと至難の業やね。だからこの議論を通して、黒部らしさっていうものをお互いに考えていく、そういうことが非常に重要だと思うんです。

#### 部会長

そうですね。はい。今 委員おっしゃいましたけども、やっぱり黒部にしかないものとか、黒部で磨き上げていったらいいものっていうのは、必ずあるはずでして、都市間競争の中ではそういうものはやっぱり我々の財産として、例えば我々はせっかく宇奈月さんと一緒になってですね、宇奈月さんの財産である黒部峡谷、これ世界に誇るさっきもさん言っとられましたけどね、世界に誇る黒部峡谷もあるわけですから、そういう財産を磨き上げて特化してくと。さんおっしゃるように、その辺がきちっと浮かび上がってくると、黒部にしかないもの、黒部らしさどころじゃない、もう黒部にしかないというものはあると。

#### 委員

むしろ無いってことよりもらしさをどう演出するかということが、これからの議論ながね。例えば温泉っていったらしゃわ中にあるんですよ。それこそ宇奈月温泉があって皆憧れを持つ。それはそこに住んでいる人達が温泉をまちづくりに掘り起こしていく成果ながね。だからそのらしさっていうのは、人が作ってくんだと。そういうような精神がやっぱりここで将来的には非常に大事であると。

#### 部会長

ありがとうございます。テーマについてもお話が出ましたが、私はとてもいい議論で今後考えてく時の中でも黒部らしさ、今 委員おっしゃったような形でぜひ盛り込んでい

いのかなと思います。よろしくお願いします。

よろしいでしょうか。それでは議論も出尽くしたようですので、次ですね、協議事項（２）の施策中分類の事業メニューというところで、先程から少しお話も出ております。事務局のさっきの説明にもありましたが、市の職員の皆さんで協議を検討されてまとめられたものであって、10年を見据えてということではありますが、この辺は固まってしまってコンクリートされたものではないと重ねて言われましたので、先程から何人かの委員の方からお話出ましたように、タイトルについてとか、表現についてとかいうところをどんどんお話していただいて結構なので、この辺はかなり柔らかく受け止めてもらえると。今日はこの辺についてしっかりと皆さんの議論を意見を出していただいてということになるとと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

もう一つ状況の説明ありました。重点事業っていいですか、この重点事業の絞込みと黒丸が現在3つついておりますが、これは事務局行政サイドの方で考えられた重点項目ということでありまして、皆さんこれはいかがなものかと。これはこうではないかという意見もこれもあってもいいということがございますので、合わせてその点を皆さんで議論をしていきたいと思います。

それではもう既にお話が出ておりましたので、順番でいきましょうか。委員さんが言われた点の新庁舎の建設というのはかなり大きい話でありますので、少し後に回させていただきますね、これについてはかなりいろいろ意見が出るとと思いますので、さんおっしゃいました連携・交流の促進というこの表現自体が一体何の連携・交流の促進なのかと。この施策区分を見ただけではちょっと分かりにくいですよ。それからこの事業メニューの中に都市間交流・連携の推進、それからもう一つは市民・企業・各種団体との連携推進というのはありますが、果たしてこれだけでしょうかと。こういうことございましたでしょうか。

委員

えっと、すいません。

部会長

はい。

委員

施策部分としてはいいんだと思います。広い域内の影響もあると思いますのでいいと思います。個人的っていうか仕事の立場も踏まえて、さっきの話もう少し続きをすると、例えばこの事業メニューのところに、こうしてくれというわけじゃありませんよ。例えば交流人口、それから定住や半定住を増やしていくっていうような柱立てを入れるか、あるいはサブタイトルでも入れていただくと嬉しいなというのがあります。実は昨日、県の総合計画の未来部会というのがありまして、そこで県の施策の中で新しくおこしました。何でもかいいますと、この先程委員からもあったんですけど、どういうことかということ、ご存知の通りどこも含めてですけど人口が減ってく時代に入ってます。必然的にその地域の活力っていうのは、落ちざるを得ないような流れになってます。都会っていうか、我々の方

で三大都市圏、東京とか名古屋とか博多とかに富山県出身の人なんですけど、3,500名くらいピックアップしてアンケート調査をしたんですね。そうしたら1,000名弱回答があったんですけど、その内の半分ぐらいの人は、そのうち富山に帰ってきてもいいよと。あるいは本拠は都会にあるけども、親もいるしあるいは季節的なら富山に来てもいいよと。そんな意向がありました。しかもその時期というのが遠い将来じゃなくてここ数年ぐらいの内に行ってもいいよと。もちろんアンケートに答えていただいた年代が団塊の世代っていうこともありますので、50代とか40代、50代、60代の方がそういう意向が強いんですけども、そういうニーズがあると。それが近い将来新幹線もできますし、東京から2時間で来るようになると。そうすると案外そういったようなものは現実的なものになるんじゃないかなと。走ってからこの受け入れ態勢を考えてたんではどうも遅いかなと。今の内からそういったニーズを受け止めるような準備っていうものも考えておいた方がいいんじゃないかと。その際に新幹線の駅がある黒部っていうのは、すごく有利なんですというようにちょっと思いがあります。もう一方、片方の意見からは、この年寄り、年寄りって言い方は変ですね。高齢者の方ばかり来てどうするのかという意見もありますけど、実は今日東京で総務大臣と各県知事が意見交換をしたと。その中で、北海道の知事さんは1,000人の団塊世代の居住がもしあれば、500人の企業の誘致に匹敵するというふうな話言っとられます。これは何も地元の人が経済的な損失をして、損をして嫌な思いをしてまで人を呼んでくる必要は全然ないので、経済的にメリットがあるから呼んでくるんですね。もう一つは経済的にメリットがなくても、地元の住む人々が何らかの関わりで役割に関わる場面がでてくるんです。先々週長野の飯山というところに行ってきました。そこはこういった都市からの人を積極的に呼んでこようという取り組みやっています。何のためにやるかっていうと、それは地元におられる人が喜ぶからだって。子供が都会に働きに行っていて、老夫婦2人で暮らしてるんですが、そういう人が近所に時々来ると子供さんとか孫さんとか連れてきたりすることがあります。そういう人と地元の人が里親みたいに親戚契約を結んでいると。そういうような取り組みで、高齢者の方も関わるできるようになったとかってこういうようなそういう働きがあったりします。個人的には市民が参加する行政っていうのはどういうことかなあと。それはいろんな場面でそれぞれの市民の方が係りを持って動くことができ、ああ自分も何か役割があるというふうに認識できるような社会っていうか、ことなのかなと。その交流人口の拡大っていうのは、人を増やすためだけではなくて、住んでる人達が喜ぶためにやるという持論という意味なんです。それでこの柱の中で、都市間交流とか連携っていうのはいいんだけども、もちろんいいんで、そういうものの大きな柱の一つに黒部の持つ交通の結節点それから観光地もある、そういったものも上手く噛み合わせてそういう人をいろいろ取り込んで、やがては黒部に住んでもいいやというような人が増えてくような、そういう動きを目に見えるようにしていただけたらなあという意味です。

#### 部会長

はい、ありがとうございます。貴重な意見ありがとうございます。他の委員の方で関連して何かございますか。実は私、商工会議所にもおりました、先日くるべフェアっていうフェアを産業イベントをやったんですが、その中で「ロハスタウンくるべ」っていう今回

特設イベントをやったんですよ。新幹線ができたときに、黒部の商工会議所で一体何ができるんだろうかと。今 委員がおっしゃった黒部に住んでいただく、新幹線ができたらいわゆる都会から黒部に住んでいただいて、いろんな意味で新幹線できるからすぐ東京にも帰れるだろうし、そんな感じで口ハスなまち、そういうタウンを一つ作って、県外からどんだん人々を呼ぶような環境を商工会議所でいろいろ考えて、そういうまちづくりをしていったらどうかという商工業でそういうことを考えていけば、いろんな意味で今商工会議所で新幹線に向けて何ができるかっていう話の中でちょっとぼやけてたんですが、それが話し出たときに結構いい話だなあと。皆さんそういうことで、今回の口ハスなまちづくり、確かに さんおっしゃったように、住んでる人が喜ぶまちでなければ、他から人が来るわけがないので、その辺も今この中に実は観光ではなくて、定住とか移住とかいう人口、交流人口を増やしていくということの中に、例えば商工会議所と連携してそういうものを考えていくとかいうことがあったらとてもいいなあと、今 委員の話し聞いてて思ったんですが、事務局はこの辺いかがでしょうか。とてもいい意見だと思うんですけど。

#### 事務局

いろいろとお話をいただいてありがとうございました。連携・交流の促進というふうには施策区分がありまして、事業メニューとして記載の通り2つ挙げとるわけですけども、どちらかという、こちらの方ではまちづくりの方針にありますように、市民と行政が一体となったまちづくりという、そういう方針の中での連携・交流の促進というふうには捉えておったわけでありまして。交流人口の拡大とかという非常に重要な視点も当然あるわけでありまして、全然そういうようなこと考えてないということでもございません。第2部会の方でもいわゆる活力という基本目標に該当するだろうなというふうに思いますが、観光の分野で、やはり観光というのは大きい目玉であるという中で、その中では当然交流人口を拡大していかにやらんということも実は出ておるわけでありまして。ただ何と申しますか、どうしてもこういう体系化しますと、区切りができちゃうもんですからなかなか横断的にまとめるのが非常に難しいわけですけども、いろいろご意見いただきましたので、少しその辺を踏まえて事務局の方で再度検討の上整理をさせていただきたいと思っております。

#### 委員

お願いします。

#### 部会長

はい、お願いします。

#### 委員

2点私は交流というのは、自分とこに来てもらうことを交流だという考えておる人が非常に多いように思うんですよ。来てもらた分だけ自分も行かにやならないんですよ。それが交流っていうものなんですね。どうしてそんなこと思うかっていうと、長野県の小布施っていうのがあれは非常にまちづくりで有名だけれども、あこも全部自分とこに来てもら

うことだけしか考えとらんと。例えば私とこにいろんなお菓子もそういうものパンフレットくるわけね。そしたら私も手紙でご丁寧に前文と注文の内容と結びの言葉を書いてきちんと注文してやるがね。ところが家に送ってくるのは請求書と新たなパンフレットと品物だけなんです。今注文してもらってありがととかね、そういう添え書きがない。そうするともう嫌になってします。あこは自分とこに来てもらうだけのことを考えている。そういうもんじゃないんです。交流ってもんは、来てもらったら自分も行かんにゃんならん、その代わりに。だからそういう行ったり来たりという考え方をやはりね、この交流のところにきちんと入れておかないと、これ片手落ちですよ。それともう一つ、年とったら富山県へ帰ってきてもらうというのはいろいろ話あるけれど、これ教育、基本的に教育なんだよと。どんなことかという、僕の子供の頃の教育を思い出してみると、富山県、富山とはもちろん富山県とはいわんけども、うちは貧乏でここの場所も貧乏ないと。お前しっかり勉強してそして東京や大阪行って頑張れやと、そうせんとそのために勉強するがやとこういう教育を受けてきた。だから富山県の教育は、これは全国的に有名でね、富山県は教育県だけれども、教育輸出県なんです。出すだけ出してしまふ。自分とこはあまり来ないんで、他へ行ってやれっていうて出すだけやって、近年になってこう帰って来い帰って来いという、これは教育なんです。その教育を受け入れる企業、機関これもやっぱり非常に大事ながね。だからそれをしっかりやっていかないと、こじき根性出して帰ってくれてというような話を人に、このような話ではこれは解決にはならないですよ。だから根本的に教育、それからものの考え方そういうものをやはり変えていかないと駄目だと思います。

#### 部会長

ありがとうございます。できればですね、この1番目の連携・交流の促進というところ、せつかくですので順番にちょっとやっていきたいと思っておりますので、1番についてだけちょっとお話をしていきたいと思っております今は。よろしいですか、はい。

#### 委員

今私、委員さんが言われたアンケートとったら帰ってくるっていうねえ、こういう話なんですけど、今委員も言われたように、私達は親として子供を一生懸命育てて大学やって東京やったりこうやったりそのやる時に、やっぱり親としてもふるさと愛とか親のそういうものをやっぱり東京で勉強して就職して東京で力を出してくるけれども、定年になって必ず自分のふるさとへ帰ってきてくれよっていうその親の願いを、やっぱり小さい時にきちんと教えとけば、富山県に早く帰ってこいよって言わなくても子供は来るんじゃないかと思うんです。何故かという、よく先生にいわれるんですけど、やっぱり黒部川の魚は黒部川に帰ってきて子供を産んで死ぬでしょう。私達は魚じゃないんです、人間だからそういうこと当たり前前に教えとかんなんがに教えていなかったと。ただ勉強、勉強、勉強で人間とは何なのかっていうものの根源を教えてなかったので、富山県はちょっと失敗してるんじゃないかと思えます。ですから、この連携・交流のところでちょっと難しいけれども教育ということはちょっと私とこはここの中に入りませんね。入らないね。

部会長

ただ、今 さんも さんもおっしゃったやっぱり教育というのはもちろん時間もかかりますし、ただそういうものはなくして一朝一夕にできるもんじゃないよということも事実です。はい、ありがとうございます。

委員

教育なくして未来なしとかっていう。

部会長

はい。ただ私達はやっぱり新幹線黒部駅っていう話の段階で、やはり人は出てくだけの駅にならないように、出てくだけのまちにならないようにっていうやっぱり強い思いがありますので、やっぱり 委員おっしゃったようにねえ、入れたらださにゃあかんというそういう交流ってまさしく交流ですからね。そういうこともきちんとして考えていかなきゃなんないと思います。

委員

第1部会の自然と共生のところで、私達はここじゃないから言えませんが、ここではやっぱり連携してグリーンツーリズムとかブルーツーリズム海の生地の方へ来てください、あるいは私は農業ですからグリーンツーリズムで交流しませんかっていうことは、大自然のシンフォニーに向けて大切なことだと思います。

部会長

あとで所属部会以外に対する意見っていうのがありますので、そこでまた聞かせて下さい。ありがとうございます。

1番の連携・交流の促進というところで他にございませんか。

委員

はい。

部会長

よろしくをお願いします。

委員

質問なんです、この資料の。

部会長

資料4の方ですね。

委員

そうですね。資料4の4番、左下にあります課題ですか、1番に地域間交流の強化・推

進、効果の高い地域間・都市間の連携とありますが、効果の高いつてこれが多分格っていかどういった意味なのかちょっと教えていただきたいなど。あとその次にあります都市・地域間、右上ですね。施策にあります将来イメージっていう中に、都市・地域間連携・交流による質の高い行政サービスのまちっていう質の高い行政サービスっていうのは、どういうイメージとして資料の中に埋め込まれてるのかっていうのをちょっと聞きたいんですけど。これが答えになってくるのかなあとと思ひまして。

部会長

事務局、よろしくお願ひいたします。

事務局

いわゆる連携・交流の促進ということですけども、一番下の のところに、効果の高い地域間・都市間の連携及び施策を展開する必要があるというここの施策の課題のほうで、この効果が高いという点につきましては、いわゆる例えはお互い都市間交流をここの例えは考えた場合において、お互いに足りないものを補いあうとか、あるいはある物を相乗効果で出すとかということ、ある意味ではちょっとここのいい方は変かもしれませんが、付き合うところはやっぱり効果のあるようなところと付き合ひましようというようなそういう意味での使用であります。それからもう一つ、右側のそのページの一番上の質の高い行政サービスのまちと。行政サービスにもいろいろあるわけでございますけれども、いろいろ都市間あるいは地域間の交流を図ることによって、例えは一番典型的な例が下の方のBの方にじゃどのような視点に立ち施策を展開するのかということにありますように、防災機能を高めるあるいは補完するというようなそういう機能、それからその他の何ていうか安全とかということに対してお互いに連携をとることによって高めあうことができる。高めることができるそういったようなことでより一層のそういう交流を進めることによってそれぞれの分野でより高い市民サービスができるんじゃないかということのような意味でこちらの方に記載してあります。

委員

はい。そしたら中分類の右側に事業メニューってあるんですけども、この中に出てくるこれですね、この資料ですね、この資料の右側に出てくる都市間交流の連携ってものに関してもやっぱり今ほど言われた防災とかそういったやっぱり必然的なものを求めていくような。

事務局

そうですね。もう少し大きくしますと、例えはいわゆる姉妹都市なんかでも姉妹都市交流でいろいろとやっていますね。そういう中で、例えはアメリカのメーコン市さんのどこのマーサー大学とこの病院とですね、少し提携しまして研修医の派遣にも受けてもらって、いわゆる医師確保というようなことを図っております。それから来年度からは看護師のいわゆる研修も進めていきたいと、そういったことによって人材不足の解消を図っていききたいというようなそういうことが今いろいろんな形で交流を進めていくという意味であります。

そういう意味で、これは外国の例ですけれども、国内にしてもいろんな形でそういう我々にとってある意味では利益になるような、そういう交流を進めていきたいということになります。

委員

分かりました。

委員

はい、すいません。

部会長

はい、どうぞ。

委員

最初に戻ってしまうような気がするんですが、委員が言われた定住人口の推進というのは、ぜひ入れていただきたいなというふうに思います。全国でも先程も言われましたとおり、全国各地でそういう運動が起こっておりまして、タレントの菅原文太さんなどが中心になってNPOも立ち上げておられますし、日本故郷回帰運動ですか、そういうのもやっております。そういった面で全国でこれはいいぞというふうにもう既に各地でやっております。黒部でもですね、黒部、先程富山県から出た人にアンケートとって言われましたけれども、富山県出身だけじゃなくて都会に生まれて都会に育った人もここに来て、黒部の良さを知っていただきたいというふうに思いますし、私達も黒部にずっと住んでますんで、灯台もと暮らしというじゃないですけども、そういう人達、外から見た黒部、それからずっと生まれて都会で育って黒部に来た時、黒部の良さって外の人の方が分かるような気がします。まちづくりでもよそものとかっているいろいろ言われるようにですね、やはりそういったところで外の人との交流があれば、黒部の良さももっと知ることができるんじゃないかなというふうに思います。また観光、それから商業、またそれからですね林業・農業とか漁業とかの担い手の部分に関しても、もしかしたら定住人口が増えれば解消できるんじゃないかなというふうに感じますので、ぜひ入れていただきたいなというふうに思います。

部会長

はい、ありがとうございます。どうぞ。

委員

いいですか。一つ余談なんですけど、青年会議所の方で定住人口を増やすのにどうしたらいいかっていう議論したことありまして、その時に定住人口を増やすのに交流人口を増やさないといけないと。我々の今のこの黒部ってところは交流人口を増やすのにはすごくいいところであろうと。観光地があるし、ただ交流人口増やすのにどうしたらいいかっていうことで考えた時に、その下に認知人口っていうものがあるんじゃないかと



という仮説を立てたんですよ。認知人口は何かっていうと、要は黒部っていうところを知ってる人を増やせばいい。首都圏に行くと、東京行くと、まあ大阪・名古屋・金沢ぐらいまでは認知されてるんですね。でもただ富山ってなかなか認知されてない。でも逆に黒部は認知されてるんですね。そういった中で、もし交流っていうものを増やすのであれば、まず最初に認知っていうことをやられるような努力が必要ではないかっていうことで、当初青年会議所の方では黒部っていうもののネームブランドなり名前を活かしたまちづくりをどんどんどんどん黒部を発信していくようなまちづくりをしていけばいいんじゃないかっていう結論には至ったんです。一つ参考にしていきたいということも考えました。

部会長

今出てきたように、青年会議所さん、商工会議所もいろんなところでね、交流人口、定住人口っていうのを考えてるわけで、そういう意味では何かこういうところに一つ項目があってですね、展開していただければ非常にいいんじゃないかと思います。事務局の方、一つそういうことで先程にプラスしていただければよろしく願いいたします。

よろしければ次2番目の開かれた行政への取組みというところに移っていきたいと思いますがよろしいですか。では2番目の開かれた行政への取組み、事業メニューが5つほどあります。この辺についていかがでしょうか。

ご意見ございませんか。よろしいですか。何か事業メニューは広報活動の充実・公聴活動の充実・情報公開の推進とすごいパンパンパンと書いてあるんですが、私自身が感じることの一つに、広報活動なんかは具体的にどう充実していってもらえるのかなど。伝える手段というのはそんなにたくさんあるわけでないですし、比較的内容の変わらないわけじゃないんですが、この辺で何か事務局の方で例えば広報活動の充実って具体的に何かお考えのこととかあるのでしょうか。

事務局

よろしいですか。

部会長

はい、どうぞ。

事務局

各委員ご承知のように、過去ですと市の広報ぐらいしかなかったと思うんですけれども、今はCATVがございますし、ラジオ・ミュージックがあったりして、いろんなそれからインターネットでホームページも開いておりますし、そんな昔のいわゆる紙だけの情報じゃなくて、いろんな形で情報提供しとらですけども、そんな内容を充実していきたいと、そんな意味で記載させていただきたいと。

部会長

紙ベース広報以外に今言われたような、広報媒体いくつも現在もありますし、それをこの中にありますどうやって分かりやすく皆さんに伝えていくかという、やっぱりアイディ

アみたいなのがないと、媒体をどう使っていくかという使い勝手の問題とかあると思うんですが、ただこういう媒体がありますよっていうだけではないと思うんですけども、何ていいますか、媒体っていうのはあくまでも伝える手段ですから、どういう内容のものをどう伝えるかっていうその辺がもうちょっと盛り込まれてると期待感ももてると思うんですけども。

#### 事務局

まあそのあたりはやっぱり委員さんの方で、今こういうお知らせみたいな形しかないけれども、今後こういう形で検討するようにしてくれよと、そんな意見をいただければ助かると思います。

#### 部会長

そうですね、はい。ぜひですね、日頃皆さんが広報見られたりCATV見られたりしてられて、もっとこういうふうにしたら伝わりやすいよというようなところを、多分お聞きになりたいと。率直なこといってられますのでぜひ今回じゃなくても結構ですからいろいろ出していただくとありがたいなと思います。2番よろしいですか。

それでは3番、市民活動支援への取組みってところで、市民参画の活動・支援事業、事業メニューとしましては3つございます。これについていかがでしょうか。

#### 委員

では、一つ。

#### 部会長

はい、どうぞ。

#### 委員

公民館活動、例えば私は村椿でしたら村椿に本当の公民館があって、また私とこの地区小さい町内会の公民館があると。そういうシステムで今認知症とか元気なお年寄りとか普通の私達も公民館活動するにあたって、これからは大きい公民館に皆が村椿なら村椿全体が公民館に集まるっていうことも大切ですけど、町内会の公民館がやっぱりしっかりとして、自治会と共にあるいは女性の会と共に、自分達は自分達のお年寄りと共にふれあい事業するとかってちょっと細くなるんですけども、そういうふうな活動にしていっていいかなあと。私前から思うんですよ。やっぱり自転車に乗って大きい公民館行くよりも、自分の地区の公民館で皆が集まって楽しく話し合ったり何か作ったりするっていう環境にしたらいんじゃないかなあと常々思ってますけど。そういうこと意見言うてもいい。

#### 部会長

ええ、いいですよ。意見として。何か聞きたいわけじゃないですね。

#### 委員

聞きたいわけじゃないけど、予算もこの大きいところから小さいところに移動してくだされば皆が生き生きと活動できるんじゃないかなあと思うんですけど。皆大きいコミュニティに行くよりも、自分の集落まちのところでやるといいなと私は思うんです。なぜかっていうと、神戸の災害の時も地域でやってたお年寄りは皆助かったと。そういうコミュニティしてないところは皆おばあちゃんもおじいちゃんも死んでしまったと。やっぱし地域のものは地域でおばあちゃんあこの角っこのところにおばあちゃんの部屋があつてあこにいるよっていう、そういうコミュニティがしっかりしてたらもちろん認知症もならないし健康で一生送れるんじゃないかなあと思って、大きいことよりも小さくしてつた方が私は前からいいなあと思ってるんですけども。

#### 委員

それに今 委員さんおっしゃったことに付け加えまして、今 委員さんもおいでになりますけども、地区社協と何か何ですか、これは社会福祉協議会ですよ、これは市ですよとか、何か私達すごく分かりにくいんですけども、6番目の財政の運営というところにも関連してると思うんですけども、何かその地域の社協と、それともう少し分かりやすく、流れがよく分からないんですけど、ちょっと聞かせていただいたら、まあ6番のところでもよろしいですけど。

#### 部会長

事務局いかがですか。

#### 事務局

そうですね。流れが分からないって、具体的に例えば何が。

#### 委員

予算化するには今その地区振興会長さんの地区から私達予算いただくのと、市からのと何か出るところが違うんでしょ。何か社会福祉協議会っていうんですか。

#### 委員

まあ 委員さんからおっしゃるのはやはりそれぞれ地区の振興会と社協との関係につきましては、だいたい各地区の振興委員の評議委員の方が、その地区の社協のまた役員にもなっておられるわけです。結局兼ねていますので、殆どの地区でそういうことではないところもありますが、その地区の社協、例えば村椿なら村椿の振興会長さんが、社協の会長になつとられると。両方兼務されとるから何か一緒に、区分けされとらんがですね。それに地区によっては民生委員の方も地区の振興会の中でおられるということでその辺の部分があつて。

#### 委員

そうなんですけど。

委員

あとでまた行政の方から聞いて下さい。

部会長

ちょっと何か特殊な話といたしますか細かい話かもしれませんが、私もちょっとよく理解できませんので、また後ほどちょっと分かる範囲でということですいません。

委員

ここ3番目のこれについてはこういう3つ地域コミュニティ活動の促進と市民参画の促進と施設の整備・充実っておりますが、どれ先ってことないけれど一番先にコミュニティ活動施設の整備・充実というのを一番上にしてもらったらどうかなあと思ったりするんですが。

部会長

委員としては一番上にもってきて欲しいと。

委員

そうですね。

部会長

そういうご要望ですが、別に上にあるのが重要だっというわけではないわけですし、重点項目が一番下にあたりもしますのでないんですが、まあ重要な順番でないっていうことであつたらこれでよろしいですか。

委員

はい。

部会長

はい、他にご意見ございますか。それでは4番目の男女共同参画社会の推進、男女共同参画推進事業、3つ書いてございます。事業メニュー他にご意見ございますでしょうか。

事務局

部会長さん、よろしいでしょうか。

部会長

はい。

事務局

先程 委員さんの方からこの中で、介護・子育て支援及び相談窓口の充実ということ、他の部会でも第4部会ですか、子育て支援ということもあります。ただ男女共同参画とい

うものを進めるについて、その分野でも特に介護・子育て支援及び相談窓口の充実をしていかなければ、その男女共同参画というものが進まないんだという、どちらにも当てはまるわけですが、そういう意味であえてここで事業メニューとして打ち出しておるということに実はなっております、男女共同参画推進事業としてこういうことをぜひ謳いたいということで記載をしてあるわけでございます。柳川課長さん何か補足ございましたら。

#### 事務局

そのとおりでありまして、かつて子育てとか介護は主に女性の分野といわれていたわけですが、男女共同参画を推進するにあたって、そういったことへの対応も必要であろうと。

#### 委員

男女共同参画でこの子育て、この子供を産み育てるということは、女性が十月十日お腹にもって産んで育てている。これは本当に男性の方にはできないことなので、介護は男性も女性もできると思うんですね。それでそこら辺ちょっと男女共同参画で難しいんですけども、これはどの分野でも子育て支援は大切だと思っています。あらゆるところに子育てが入ってもいいくらいかなあと私は思います。それで、この右側のページの男女共同参画都市宣言、平成18年と19年と書いてありますけれども、とても嬉しく思ってますけども。

#### 部会長

とても嬉しいとは評価しとられる。

#### 委員

評価してます、はい。実現するように私達も努力いたしますけれども、行政の皆さんの方もこの間県知事が黒部へ来られた時に、愛児園のところで「僕は子供を産んで休みをとらない男性を、とらない男性を呼ぶんじゃないで、その上司を呼んでなぜ休みをとらないか、とらせています」って知事が言われてました。本人を呼んでじゃなくて上司がなぜ休みをとらないか、どういう理由があって書かせていますって県知事がすごい黒部の愛児園のあこで言われましたので、やはり男女共同参画は行政から頑張ってください、介護も子育ても共にやっていくようお願いいたします。

#### 部会長

よろしいですか。

#### 委員

この男女共同参画推進委員っていうのは、地区校下で2名でしたね。

#### 事務局

はい、そうです。

委員

他の今変わって、例えばJ Aとか各団体からもあげてもいいっていうわけでも。

事務局

地区単位でお願いしております。

部会長

他にございますか。

男女共同参画社会っていう言葉は出てきてどのくらい経ちますかね。

委員

基本法は平成 11 年ですけど、その前に、法律化されたのは平成 11 年 6 月その前に。

部会長

だいぶ何か新鮮味なくなってきてますね。

委員

なかなか進まないですね。

部会長

進んでないですか。

委員

進まないですね。

部会長

だから今だに推進なんですね。

委員

男性も理解がないかもしれんけど、女性自身も勉強してないっていうか、例えば氷見の方で女性の議員が落選してしまったとか、黒部もまあやっところっていう感じで、全ての委員に女性を 30% 登用するようになって言われてるんですけど、黒部は 20 もう間もなく。

事務局

25.1 ですけど、まあ教育委員会関係に関しましては、30% 若干越えております。

部会長

ありがとうございました。ちょっとだいぶ時間も経ってまいりましたので、じゃどんどんまいりたいと思います。

5 番目、行政運営の効率化。計画的行政運営推進事業、事業メニューとしては7つ入っ

てございます。ここで始めて重点事業出まして新市庁舎の建設というのが重点事業に入っています。どうぞご意見お願いいたします。はい、どうぞ。

#### 委員

私はこの審議にあたりまして、夢と安全とそれから環境、改革と、こういうことを柱にして行政改革とこういう点です、ぜひ義務的経費率を35%以下に調整していただきたいとこういうことで公募いたしました。それで、先般市の新市建設計画のこれを見ますと、人件費が18年度は38億5,000万と27年度が31億6,600万円と非常に素晴らしい計画を立てておられますので、私が今提唱しましたやつにこれをやっていたら、だいたい達成できるのかなあとまあこういう思いであります。ただ、少し後半にですね、だいが詰まるようになってますけども、平成、来年度から団塊の世代の退職とこういうことが出てまいりまして、もっと早くオーバーでるんじゃないかとこういうことを期待してはるんですが、黒部市役所の皆さんが若いからもっともっと遅い時期に出るのか分かりませんが、これに向かってぜひ実現していただきたいなとこういうふうに思います。ただ私もそういうことを言うだけじゃなくてですね、90年代に約300名ほどパートおりました。91年の4月末が301名おまして、ちょうどバブルが弾けました時、少し人間減らしなさいと。ただ首切りは一切やるなということでありまして、北陸支店から東京に転勤されると。まあ特に東京が激戦地ですから優秀な人材をどんどん北陸からあげるということで、男性が200名くらいおったと思うんですが、優秀な人から東京の方へ出しました。そしたら残ったものはさらにまた優秀にならないと北陸では通用しませんし、東京の受ける側では優秀なもんでないと要らないと。そんなできの悪いもんはいらないということで、どんどん活性化してまいりました。最終的には99年の4月か約8年で90名ほど減らしまして、それでもびくともいたしませんでした。そういうこともありますから、これからどこも厳しいですし、先般高山市のやつが載っておりました。あんなことできるのかなあと。退職優遇制度とかなにやらとかいうことで、どんどん人間を減らすということ、そこまではできませんけども、退職者が出て極力補充せずにですね、何とかやっていただけないかなあと、こういうことが希望であります。この計画通りやっていただければ、素晴らしい黒部市ができるんじゃないかなあとこういうふうに見ております。

#### 部会長

ありがとうございます。  
他にご意見ございませんでしょうか。

#### 委員

よろしいでしょうか。

#### 部会長

はい、どうぞ。

#### 委員

行政評価制度の導入って書いてあって、今この資料ずうっと見てるんですけども、経営的視点に立った事業の運営って何かちょっと説明していただきたいんですけど。

部会長

行政評価制度のことについてももう少し詳しくお願いいたします。

事務局

行政評価制度っていうのは、最近要は自治体でよく導入されている制度でありまして、これまではどちらかというと行政っていうのは予算の執行面そういったところに重きがあって、それがどう住民満足度であるとかそういうものに活かされたかという検証がなされないままやってきたと。そういうようなところから反省として今後はそういうものをきちんと見て評価して次につなげようと、民間にいけば当然のように行われていたやり方なんですけど、それを今度この総合振興計画を導入するにあたって、それぞれの事業でそういった制度で評価して次に結べていこうということを導入しよう。ちなみに19年度、来年度は試行ということで、いくつかの事業について実施してみようというふうなことで、平成20年度、この計画のスタート年度に合わせて準備していこうということでございます。

委員

分かりました。何かすごい期待される。ありがとうございました。経営的視点で書いてあるもんですから、何かどういうふうなことなのかなあとってちょっとお聞きしました。

部会長

はい。ではその他に。

委員

はい。

部会長

委員。

委員

はい、このメニューの中に、行政サービスの向上、それからずうっと下の方に庁舎環境の改善とありますが、重点項目のこの新庁舎の建設ちゅうことで、行政サービスの向上あるいは庁舎環境の改善ができるんじゃないかなと思うんですが、そうしますとこの2ついらんがじゃないかなあと思ったりしたりします。

部会長

行政サービスの向上は新庁舎の建設がされれば、行政サービスの向上は自然となると。事務局いかがですか、この辺は。



## 委員

これは分庁舎を前提として言っていることかなあとと思ひまして。

## 部会長

分庁舎を前提として言っていることですかと。行政サービスの向上というのは、分庁舎を前提として言っているのかと。新庁舎の建設がされれば、これは非常に向上するからいけないんじゃないかと言っておられますが。その面として違うのか同じなのか。

たいへん難しい質問ですか。答えようがないというか。はい、どうぞ。

## 事務局

確かにおっしゃるとおり庁舎を新しくすることによって改善される面も大いに期待されると思ひます。またそういった時にはそういったことに配慮して庁舎は整備されるというふうを考えておひまして、今委員さんがおっしゃられた庁舎関係においてはたいへん関連があると思ひます。ただ、庁舎は今すぐ建てられるものではありませんで、当然建設までにはある程度の期間が必要というふうなところで、こちらの行政サービスの向上につきましては、とかく行政というのは窓口サービス対応が悪いとか、まあそういうようなことよく耳にするわけですが、行政サービスは常に平等にですね、市民に提供されるべきでありますし、その情報なりサービスは正確で分かりやすくそういったことが大事なのかなと。それとやはり簡素っていいですか、スピードの面でお待たせしないということが、そういったような視点も必要だというふうなことで、そういったことについては、庁舎を建てる建てないに関わらず進めていく必要があるというふうなことで、この項目に謳って出しているところでございます。

## 委員

ただ今分庁舎だったらやっぱり宇奈月行ったりこっち行ったり一つの用事に出よう思ひても黒部だけでも終わらん黒部の庁舎来てからまた宇奈月にも行かんなんということで、この行政サービスっていうことを。それから庁舎環境の改善とありますが、これは今言われるように、今のことを改善することにやっぱり何かやっぱりお金かけんにゃん駄目やと思うんですが、新庁舎でもすぐする前ならまだそういうところに改善の費用をかけても何か無駄なような気がするものだから、その辺のとりあつかいがどうかなあと思ひますが。

## 部会長

新庁舎ができるまで環境うんぬんということ、庁舎の環境を改善するがに多額の費用をかけたらず駄目じゃないかとか、ただ新庁舎を造る造らないもまだ決まっておひませんし、これについてはここで少し議論をしていただきたいところなので、重点事業でもありますし、まず新庁舎が必要かどうかこの辺について、大変この部会の重要課題でありますので、ぜひもう少しお話をいただきたいんですが。

## 委員

やっぱり必要。だってあんな狭いところで。

#### 委員

狭いところというよりも、やっぱり耐震性とかそういうような安全上の面でやっぱりあれじゃないんですか。

#### 委員

でも何年ぐらいには建てたいというそういう希望は市長さんとか議員さんがこれから議論するんでしょうか。現在はあれですか。

#### 部会長

それこそこの計画に基づいて、今後議員の皆さんとも図りながらやってかれると思うんですよ。どうですか。

#### 委員

ちょっと話があれなんですけど、行政サービスのこれ行政としてのこれ、皆さんのお仕事なんで私がいう筋合いはないんですけども、私会社やってまして、仕事の効率上げるように建物建てりゃ楽やけど、もっとお前ら努力せよっていつも言うんですよ。もちろんそういった努力されてるわけですよ。実際一つの問題として分庁舎制っていうのがあって、行ったり来たりして本当にどこまで面倒なもんなんですか。そういう分庁舎制によるデメリットっていうか、効率が悪いとかっていうのは、例えば私毎日行ったり2往復してますとかそういったレベルの話なんですか。何かちょっと具体的に効率が悪い効率が悪いって聞くんですけど、どこまで例えば何往復されるとかっていう具体的な話ですけど。

#### 事務局

例えばですね、職員が事務を行うにあたって当然順番に階級に従って、ものによっては市長まで決裁を受けなくちゃいけないという事務があります。当然宇奈月におる職員は決裁もらうに一つにしても黒部庁舎に来なくちゃいけないということもありますし、それからいろんな部、今現在基本的には産業経済部と教育委員会が地域センターもございまして、宇奈月庁舎にあるわけですけども、部間の協議をしたり何とかでも頻繁に職員が行ったり来たりしておるわけですね。さらに現在では市長まで決裁を受けなくてもいい文書でも公印を押すという作業一つにしても現在は黒部庁舎へ来なくちゃいけないということにもなっております。そんなようなこと含めまして往復30分かけて職員が行ったり来たりする回数が非常に多いということです。今回その辺の調査を総務課の方でされまして、4月から9月までの半年間で延べだいたい4,800人が庁舎を往復しとると。4月から9月ですねというようなこともありまして、これはもう誰がどう考えても時間的にも非常にロスが大きいということで、そういったところが現状でございます。

#### 委員

ちなみに例えばちょっと聞きたいんですけど、他の市町村もやっぱり分庁舎制ってとっ

とられますよね、南砺市さんとか。ああいったところにもやっぱり同じような悩み抱えておられるんですかね。富山市も他の従来の役場もありますよね。

#### 事務局

分庁舎って南砺の方がそういうようなやり方かなあって、多分同じような状況があると思います。向こうも多少形は違うと思うんですけども、その部のないところの事務を住民にサービスを提供するというふうな窓口業務関係については、それぞれの今まで役場に置いてとられますので、多分似たような状況でないかと、調査したことはございませんけども。

#### 部会長

はい、 委員さん。

#### 委員

一応県の方にいろいろな話しは聞くので、今ほどのおっしゃったとおり、一般的に分庁舎方式をもって部局を分けてる場合は、どうしても意思形成過程の手続きに時間的なロスとか事務負担が伴う悩みがある。さりとて早急なそれを解決する特效薬みたいなものはなかなかないという話しは聞いております。すいません、この庁舎の話っていうのはそもそも新庁舎建設について自由に話し言っているんですか。あのですね、これは別に私賛成・反対じゃなくて、この立場なので一般的な話で申し上げますけれども、例えばですね、新しいかどうかは別にして、一つの庁舎で行政コストを下げながらやるという考え方もちろんあります。それから分庁舎といってもすごく極端な例は、先程もちらっと言いましたけど今度長野の別の飯田市というところですけど、ここはですね、非常に極端な庁舎システムをとってまして、本庁舎にあるのは企画部門だけです。例えば農業関係の部門は農協の中にあります。観光部門は観光センターの中にあります。それから保健・福祉部門は市の市民福祉センターみたいなところ。完全にばらばらです。我々行政コストどうなんですかって聞いたら高つきますと。高つくんです。だけど、市民はそれの方が便利ですと。それから市の各セクションは関連する団体、業界があってそこいつも話ができる、連携できる。農業であればJAさんと話ができる、観光であれば観光センター。だからそれを選んでますと。これがいいとは言いませんが、どちらを選ぶかはコストが高いけれどもそういうのがいいと選ぶのか、コストが下がるのがいいのか、それは各自治体の判断です。っていう庁舎のスタイルの問題としてはそういう視点があります。福祉と負担の関係と似たようなもんですね。新しい建物を造るかどうかはちょっとよく分かりませんので、そういう話はいろいろこう議論いただくとして、調査のあり方としては市民がどう捉えるかだと思います。それが庁舎を考える時の一方での話でもいいかなあって気はしています。

#### 部会長

はい、ありがとうございます。他にご意見、はい、どうぞ。

#### 委員

行政サービスの向上とかそんなようなこと書いてあるんですけど、その中に公平な行政

サービスといったようなことを入れたらどうか。今旧黒部と旧宇奈月が合併して2つの自治体一つになったということで、多分今まで違った形で行政サービスを行っていたと思うんです。例えば宇奈月に防災無線がありますけど、黒部にはないと思います。これも不公平感だと思いますし、また細かいところなんですけど私今宇奈月温泉に何日通ってますけれども、雪が降って除雪が始まると、宇奈月と黒部の境目が分かるほど除雪のやり方が違うというか、宇奈月に入ったとたんに車がスムーズ進んで行きやすくなるみたいなこともありますし、逆の部分もあると思うんで、そういったこともできるかできないところもあると思うんですけども、そういうことも入れたらどうかというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

#### 部会長

はい。確かに合併したことによってそれぞれ2つの行政区が一緒になったことによってバラつきが出てると思います。そういうものの調整はしておられると思いますが、その辺いかがですか。

#### 事務局

はい、当然今おっしゃられるようにいろんな面で行政もいろんな面でそれぞれの制度の違いっていうのは未だにまだ残っております。これについては早急に一つの制度に変えていくというか、整合性をとっていくというふうなことが新しい市としての最重要課題というようなことで思っております。これについては、最優先の課題としてあるいは市民の一体感、一つの市としての一体感を醸成するという意味でも非常に重要な課題だというようなことで、こういった問題については今おっしゃられたように最優先に取り組んでいく課題だというふうなことで、その重要性は特に認識しているところです。

#### 部会長

はい、ありがとうございます。

#### 委員

さんの意見に反対するわけじゃないんですけど、公平っていう言葉みたいに苦しいっていうか難しいことはないような気もするんですよ。でもここに10人がおって饅頭をきちっと10個きちっと分けて公平っていうのは、まあそれで公平になるんですけど、地域全体とかあるいはいろんな公平っていうふうにするっていうたら本当に難しいと思います。簡単に公平っていうことはよく私達も使うけれども、公平っていうたいへん厳しいっていうか、弱者がいうように私達はすぐ公平にしてくれんちゃーっていうような感じするけど。

#### 部会長

そういう公平、不公平というよりは、均一なサービスというような意味合いだと思いますので、決して公平っていう意味でも公平、不公平ではなくて。

委員

だからそれもやけど、公平っていう言葉って例えばね、私達 15 団体女性団体あるんですよ。公平にして会費は 5,000 円っていうて 15 団体が 5,000 円にするんですよ。そして公平にしてじゃ動員のときは動員の時も 20 人の団体のところも 500 人の団体のところも 80 人の団体のところも公平なら会費が 5,000 円なら公平にしてじゃ動員も 20 人ずつってすると、そいがは駄目やよってまた言うんですね。

部会長

さん、お話中なんですけど、あくまでも行政は均一サービスを目指して凸凹がないように目指してらっしゃるのが行政なので、それはそういうことをご理解下さい。

委員

あーそう。それは分かってるから公平って難しいですよって言うんです。

部会長

新庁舎の問題、何かあんまり意見が出ないんですが。

委員

じゃあ。

部会長

はい。

委員

というのは、分庁舎やっぱり分庁舎でいいかどうかってサービスの的にもどうかということもお話も出ましたが、27 日で各地区のタウンミーティング終わった時にですね、その時に皆私もタウンミーティングに行っただんですが、この新庁舎の建設については市長もまず耐震性になってないと。そしてまた災害時の本部にせんにゃんならんと。そういうのがで災害本部を耐震性になっとならんと置いても駄目だと。そういういろんなことからいうて、これはどうしても新しい庁舎ともう一つ関連してですが、消防の庁舎を建てにゃならんという説明がありました。そういうことを聞いとりますと、それは新しい庁舎をやはり今いらんていうってでも、いろいろお聞きしとる中で、庁舎を新しくするためにはどうしても財政のどこよりもやはりある程度合併債を使わにゃできんだろうというように聞いとりますし、新しい庁舎で今いろいろいらんまいかの問題じゃないんじゃないかなあと思うんですが。

部会長

この中にあまり反対という意見の方がおられないんですが、私もいろんな方と立場上お話をするんですけども、やはり市長さんが言っておられる行政の効率化、時間的なロスを無くする、それを今 さんが言われた災害の拠点、有事の備えというようなこと、あと

宇奈月・黒部一体感の醸成というようなこういう話で、やはり市民がすべて納得するかと。やっぱり財政的にも非常に心配ですし、本当にそれで必要なかと。多分必要なだろうけどいう中ではやはり説得力にちょっと欠けるのではないかなと。説得力に欠けるというよりは、何かもうちょっと夢のある話にしたらどうかと。例えばここに行政運営の効率化っていうところにこの項目があること自体私ちょっとやはりそういう意味ではもっと開かれた行政の取り組みっていうところにこの項目があるとかですね、いろんな話が今出てきてる中でもやはり例えば市役所に行った時にですね、もっと相談窓口がぱっとあっていろんな相談ができて行政の取り組みも分かりやすく説明してもらってと、広報一つにしてもいわゆる一方的にこうされるのではなくて、そこに行っているような話しができると。開かれた行政、皆さんのそういう意味では敷居が低くてですね、親しみやすい集える、よくコラーレが素晴らしいといわれるのは何も行事がなくても人が集うとよく言われております。例えばそういうような黒部市役所新庁舎、市民が集って夢のある、何か夢の持てるそういう観点で新庁舎の建設をもう少し訴えたらですね、何かやっぱり行政の効率化とか災害とかですね、何かやっぱりあまりポジティブな話ではないんじゃないかなというふうに思っております、やはり大きいお金を使ってやる市民の顔である市民の顔であるそういう一つのシンボルライズされた施設を造るにはもうちょっと希望のある夢のあるそういう部分を膨らませて表現してあげるべきではないかなと私は思うんですが、皆さんいかがですかね。

委員

やっぱり今 委員さん言われたように、あーそういう考えもあるのかとそういう意見を聞いてそんな考えもあるのかとねえ、思うから皆でいろんな夢とかあいがにしたらいいとかって言うやっぱりそういうのって。

部会長

そうですね。こういう庁舎にしたらいい、こういう形で相談ができたらいい、今こういうものはないけどこう造って欲しいという話が、プラス思考であれば私は今反対してらっしゃる方々ももう少し前向きに取り組んでいただけないかなというふうに思うんですよ。やっぱり何かこういうことが駄目だからあいがにせんなん。あいが駄目だからこうするんやっていう理由だけで大きいお金で新庁舎建設進めたって市民が一つになれるかというとかちょっと足りないなあという気がしてるんですけど、皆さんいかがですかね。

委員

そのとおりだと思います。

部会長

そうですか。

委員

何か効率化だけで議論するのは、何かそれこそ夢のある話でもないし。

部会長

そうですねえ。

委員

それでやっぱり新庁舎じゃなくて、例えばこの4番の健やかに安全で安心して暮らせるまちづくりとか快適な暮らしを支える都市基盤の充実したまちづくりとか全部入るような気がしますんで、もし入れるんだったら全部入れてもいいしと思うんですけど。

部会長

今の庁舎ですとね、どうしてもお入りになったらいろんな造り方の問題もあると思うんですが、やっぱりちょっと敷居が高い感じがしますよね。だからまあこういうところがきちっと改善されて皆さんが喜んでいただけるようなそういう話にもしてと。これは例えばこの項目をですね、重点項目ですけど例えば5番から2番に入れるとかがってこういうことは可能なんですか、事務局。

事務局

可能です。

部会長

そうですね。その辺を一つ含めまして、ぜひ次回には皆さんですね、予算制のようですからぜひ庁舎をこうあって欲しいとかこういうことを盛り込んで欲しいというような意見も考えてきていただければ助かると思います。だいぶすいません時間が押しとりまして6番の財政運営の効率化の方に移りたいと思います。健全財政推進事業、事業メニューとしては4つ書いてございまして、重点事項が2つございます。いかがでしょうか。

さんどうぞ。

委員

ちょっとまあ質問なんですけど、これは人員の削減ていうか事務の合理化とも関連するんですけど、私去年かな、去年の12月かな、国民保険の方におったんですね。それで12月に変わってそれから3月とこういうことであつたんですけど、3月支払うやつが家のやつ忘れとって、あと4月に200円追加として請求あつたんですね。それは200円、実際には私は安いと思うんですね。というのは、その事務的経費前納払いとこの年間4回払いのコストとはだいたいどういう4分の1ぐらいになるもんですか。これあたりがですね、健康保険、固定資産につきましては前納制というくらいか安くなってますけども、国民保険についても市役所の事務員が1回1回チェックしなきゃならないと。それから振り込んだ都度北陸銀行に手数料がいくらか残ると。それを例えば市民に還元することにして全納払いを推奨して事務の削減をやってくというのも私はどうかなあと思うんですけど、国民保険税については法律に全部決まってるんでそういう前納制の報酬制度はないんだというよう

なことであればできませんけども、そういうようなことからいろいろ一つ一つ仕事の見直しを図りながら事務の削減を図っていったらどうかなあと思うんですけど、どういうものですか。

部会長

はい、どうぞ。

事務局

今ほどのお話なんですけど、一応前納報償制度ということだけに限らせてお答えさせていただくということですが、一応国民健康保険税につきましては、一応国の昔はそういう制度をとってたんですが、それはいかなもんかということでご指摘を受けまして最終的には黒部が県下でも遅いほうでやめるたということでございます。あとは固定資産税、あるいは市・県民税につきましては、その制度っていうものはまだ残ってますので、一応前納報償金はお支払いしてる形でございます。

委員

それはそれでいいんですけど、これからそういう人員の削減とかっていったらどこで削減するとか、そういうようなことを考えると先程言いましたように、銀行にいくらか手数料1回1回、4回すれば1回100円なら400円残ると。それから事務の作業も一日こうチェックして1,000件が一日限度だけど全納制やったら1回で済むと、そういうようなところのコストも入れて還元して前納制の推奨ということで事務を減らしてくということはどういうものでしょうか。

事務局

一応税務課の方では固定資産あるいは市・県民税等におかれましても、一応前納報償金制度等、前納をしていただきたいと。また口座振替等もしていただきたいということで推進をしてる最中なんで、これにつきましては国民健康保険税につきましては前納報酬制度はないわけなんですけど、なるべくなら前納をお願いしたいということでは一応PRはさしていただいている最中でございます。事務的な経費につきましては、確かにおっしゃるとおり口座等に手数料がかかります。

委員

市民のサービス、それから市役所の事務作業の削減と、これはやはりやっぱりそういうことも取り組んでいかなきゃならんもんですから、そういうことも少し取り組んでいただきたいなど。まあ要望です。

部会長

はい。

事務局



実は黒部市の行政改革市民懇話会というのをやっております。その中で、この1月に入ってからですけれども、行政改革大綱を今年度作りまして、そのあとのそれに基づくアクションプランといいますか、その中で今 委員さんがおっしゃいましたそういったいわゆる事務効率の点からいったらそういう制度はどうなんだというような観点からもまた洗い出しながら、その中で検討させていただきたいというふうに思っております。

部会長

ありがとうございます。財政運営の効率化で何かございますか。すみません、じゃ私からちょっとお尋ねしますが、計画的で健全な財政運営っていうのは、重点項目になっとなるわけなんです、何か下の財源確保、経常経費の削減・納税意識の向上を図れば何か健全な財政運営になるような気もするんですけども、重点事業として挙げておられるこの項目ですね、計画的で健全な財政運営っていうのは特にどういうことを指すのかちょっと何か分かりにくいような気もするんですけども、もう少し説明いただけますでしょうか。はい。

事務局

確かにまあご指摘のような感じもってるんですが、財政運営の課題のところはたいへん多岐に亘るもんですから、やはりなかなか全般を例示するわけにはいかんもんですから、一つ大きな形でこういうものを出したわけです。2行目、3行目につきましては、ある意味では1行目に含まれるといえは含まれるんですが、少し例示的にですね、2行目、3行目については出したということでございます。

部会長

分かりました。じゃ1行目は2行目、3行目を包括したような感じで重点事業に挙がってるというふうに考えればいいんだそうです。他に何かございますか。はい。

会長

ちょっと恥ずかしい質問ですが、納税意識の向上というのは、これどういう意味なんですか。要するに納税しない者とか納めない人がたくさんおるのでこれを向上させにゃならないという意味なのか、もしどの程度その未納状況なんです。

部会長

よろしいですか。事務局。

会長

ちょっと不思議だったので、質問したわけです。

部会長

はい、どうぞ。

事務局

これは委員さんがおっしゃったとおりのことなんで、納税っていうとこの収納率の向上のための納税者・未納者に対する意識向上を狙ったことだと思います。

会長

ちょっと聞きづらかったんですが。

事務局

こちら未納者に対するいろいろな人に対する納税意識を高めて納めやすいような環境、あるいは納めていただくという意識を持っていただきたいための納税意識の向上っていうことで。

会長

未納者っていうのは何%ぐらい。

部会長

未納者の割り合いとかは今はお分かりになられませんか。

事務局

一応収納率につきましては、昨年度っていうか17年度では95%が収納率であって、5%が未収納ということになります。

部会長

今回重点事業として、これ重点事業として挙げておられるのも、その95%っていうのは、例えば黒部市は低いから高くしたいというようなところですか。

事務局

いや、公平な納税ということですから、100%目指しとるわけなんですけど、基本的には県下では収納率としては市としてはトップだという状況にあるんですけど、まだまだ収納率が100%までいってないもんですからそれを目指したたものでっていう考えでこれを計上させていただいたということです。

部会長

はい。高いところを目指しておられらですね。全体でも結構なんですけど、まず重点事業ということで、3つ絞り込んでありますが、これは皆さんの気持ちと合致してるかどうか。果たしてこの重点事業でよろしいかどうか。何か重点事業、下の方に3つついてるだけで上の4つにはついてないもんですから、何か行政より財政だけにしか重点事業がないような気もしますが、その辺も含めて皆さんいかがですか。

委員

一番下の納税意識の向上には必要ないのでは。

部会長

ねえ、今の話聞くとあまり重点ではないような気がしますよね。それより少し上の4つの中に一つもって欲しいなという気もするんですよね。まあ新庁舎の建設がもし開かれた行政の取り組みというところにいくとすれば、そこへ上がっていきますけどね。納税意識の向上、これ何か重点項目っていくつかとかって決められてるわけではないんですよね。今日の議論の中で、いやこれはぜひ重点事業にした方がいいなっていうようなものはありませんか。

委員

いやこれはだいたい全部で今、今回は第1次で数字編はなかったけども、第2次では数字編出てくると。まあ合併の時の人員をどうする人件費はどうなってくと。そうでないと数字の無い計画ちゃありえませんか。ですから全部について取り組んでいただけると取り組んでいかないと市庁舎を建てる何やらだけで総合計画終わるっていうのは私はないと思います。

部会長

もちろんそういう意味じゃないんで、どれを重点として絞り込んでいくかという話をしてるんで、もちろん全部やっていただくお話なんですけど、どれを重点にしますかという、よろしいですか。

委員

重点項目はこの市役所で立てられたそういうものだけでと思いますけども。

部会長

庁舎の建設だけでよろしいというような意見もありましたし。

委員

一番上の連携・交流の促進とこの都市間交流の連携か、どっかここが重点項目に、一番下をなくしてどっか上へ持ってったらどうですか。

部会長

はい。納税意識の向上を外してですね、一番上の都市間交流・連携の推進が市民・企業・各種団体との連携推進にしたらいかかかっていう話ですが、よろしいですか。

委員

その方がいい。

部会長

その方がいい。はい。じゃ2番目にしときますか。市民・企業・各種団体との連携、1

番目ですか。ちょっとこの辺のニュアンスも先程 さんのいい意見いただいておりますので、若干何か組み込みながら上手く変えていただければありがたいと思います。

全体に私の方から一つ事務局に質問といいますか意見といいますか、NPOの新設支援みたいなことをどっかに入れてもらえないかなと。知事さんも盛んにNPOを作ってくださいということで盛んに言っておられますが、やはりこれからNPOの果たす役割りってとても大きいと。私も現在NPO法人黒部まちづくり協議会の副会長でこの席にありますが、やはり何かをやろうと思った時に、富山にも県にはNPOのそういう相談室みたいなものもあるんですが、ちょっと遠いのと敷居が高いのと両方ありまして、まあ敷居が高いっていうのは実際私の声ではないんですが、やはりNPOを申請する時に何か相談窓口をもらえるというようなところは門戸を開くという意味でやっていただけないかなあということ。それからもう一つは、例えばまち協と行政側のどこか部局でも結構ですが、そういうところとの懇談とか意見交換とかそういうものがあたらいいのかなあ。商工会議所とも多少あるのかもしれませんが、NPOの法人でまち協なんかとかそういう交流がっているんな相談、それとできれば行政の方からこういうことを民間でやってくれ、NPOでやってくれ、役所じゃなかなやりにくいんでこうだっていうような逆提案みたいなもんがないのかなと。私常々そういう意味で行政さんがこれは行政としては取り組みにくいんだと、ぜひNPOとかそういうところでやってくれたら助かるね、まちはよくなるねというような逆提案みたいなものが皆さん優秀な方がたくさんおられるそういう中から逆にでてきてそういう新設NPOの設立とかですね、やっぱりこれから高齢者福祉対策なんかの中で、やっぱり退職者支援とかそういう中でやらんならまいなと思ってることたくさんあるんですが、そういうものがこういう中にどっかにちょっと入ってきたらいいのかなと思うんですが、いかがですか。

#### 事務局

今おっしゃいました主旨を検討いたしまして、また次回にだささせていただきて、またやらさせていただきたいというふうに思います。

#### 部会長

はい、ありがとうございます。はい。

#### 委員

男女共同参画社会のところでもできれば重点項目にさせていただけたらいいなあと思うんですけど。男女共同参画都市宣言、これまあ男女共同参画っていうたら女性のことばかり何かいうとるようなかんじでじゃなくて、男も女も皆が幸せになるための提案なので。

#### 部会長

男女共同参画意識の啓発・普及活動の推進を重点項目に。

#### 委員

ええ。重点項目になったらいいかなあと思います。

#### 部会長

まあ今日は結論を出すわけじゃありませんので、意見として伺っておきます。よろしいでしょうか。たいへん予定の時間をちょっとオーバーしておりますが、だいたい意見が出尽くしたようですので重点事業の絞込みについてはこれで終わらせていただいて、我々の所属部外以外のところ、さっき　さんがちらっとおっしゃった部分もありましたが、第1、第2、第3、第4、第5部会について全体にまたがってよろしいですが何か意見がございませうでしょうか。はい。

#### 委員

いやまあ振興会長さんにちょっとまあこれから負担になるかなあとと思いますが、ちょっとお願いなんですけど、私安全ということで、例えば子供の110番の家の委員ということで、自治振興会で私も4年間振興会の役員やってまして、だいたいこういうふうにしたらどうかなあとということをちょっと。あるいはマップを作成して子供からみたマップの配置がこれでいいのかと。あるいは十字路、交差点とかですね、人通りの多いところに役員が中心になってますけど、例えばそのお店にお願いしてというようなことで、少しまあ増やすということ。それから防犯連絡所につきましても今役員変わりますと、すぐぱっと変わりますけど、ある程度固定的なところですね、私とも交差点ありまして大布施・若栗・荻生、自転車で通学する人達が何人もおると。我々は60代ぐらいまでは連絡所を引き受けてもいいですよというようなことで、固定的なところを少し見直しということを図っていけないかなと。それから植木の町内会で町内会長からちょっと言われたんですけど、ワンワンパトロール隊ということで犬がちょうど学校の通学の時に散歩するんですね。そういうものを全市的に少し取り組んで、防犯・安全上、安心のところを作っていたきたいというようなことをちょっと私書いてきましたので、あとで事務局に置いときますけど、そういうようなところをですね、長勢法務大臣は世界一の日本を作るといふことでありますので、我々はこの総合振興計画が富山県ナンバーワンの計画、実質のナンバーワンになるような計画であっていただきたいということで、観光につきましてもちょっと書いてきましたので、時間もないですから置いときますんで、ちょっとまた検討お願いします。

#### 部会長

はい、貴重な意見ありがとうございます。事務局の方から私勝手に進めてしまいました、この所属部会以外に対する意見等についてご説明は、すいません。

#### 事務局

それじゃ、いろいろご意見いただきましてだいぶ時間も経過しておりますので、手短かに申し上げたいと思いますけども、所属部会以外の件についてということでございますが、その主旨は一昨日から6部会それぞれ分かれていただいて部会を開催していただいておりますので、その部会には当然部会の役割りというものがございます。部会としての取りまとめということも事務局としても重視をしておりますけども、一方で所属部会以外の件について何も意見も言えないのかということにもしたくないというのが事

事務局の思いでございます。そこで時間があればその辺のことをお聞きしたかったわけですが、決して所属部会以外のことをこの第6部会で協議をいただくということは毛頭思っていないわけですが、他の部会の方々からこういう意見がありましたというようなことを所属の部会にお伝えをし、それらを踏まえて次回の部会で取りまとめを行っていただきたいというのがその主旨でございます。特に諮問の際の最重点課題としました北陸新幹線ですとか新市庁舎の建設の件につきましては、他の部会の委員の方々から既に意見を聞いておることもございますし、そういった他の方々からの意見も整理をいたしまして、次回の部会までに皆さん方にお伝えをさせていただきたいというのが主旨でございます。たいへん時間も押しておりますので、意見提言書ということと同封させていただいております。12月15日までというふうに区切らせていただいておりますが、先程の第6部会の続きの話でも結構ですし、あるいは所属部会以外の件でも結構ですので、ご意見があれば提出をいただくということでお願いしたいわけですが、部長さんそういうことでよろしく願いいたします。

部会長

はい、ありがとうございます。ではそういうことで一つよろしく申し上げます。それでは今後の日程について事務局から説明をお願いいたします。

事務局

引き続きお願いいたします。次回の第2回の部会でございますが、年明け1月の今のところ24・25・26あたりで再度6部会開かせていただけないかなあというふうに考えております。どの部会がどの日になるかということにつきましては、それぞれ部長さんのご日程を調整しながら、できるだけ早く決定をし、ご連絡を申し上げたいというふうに思っております。さらに2回目の部会でそれぞれ部会としての取りまとめをいただき、2月の下旬あたりになるかと思いますが、審議会の全体会を開催させていただいて、3月に予定しております基本構想中間報告に向けての一定の取りまとめをお願いをしたいというふうに考えております。今後の日程については以上でございます。

部会長

そこで日程について第2回目の今言われた日程についてご意見を求める必要はありますか。ないですか。

事務局

ええ、部長さんと調整させていただいて、後日ご連絡申し上げます。

部会長

それでは本日の議事は全て終了いたしました。全般を通じて何か特にこれだけはというところありましたらよろしく願いいたします。よろしいでしょうか。それでは特にないようですのでここで座長の役目を下ろさせていただきます。委員各位の皆さん進行にご協力いただきましてどうもありがとうございました。

**事務局**

以上で総合振興計画第1回第6部会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。